

景観作物クリムソクローバすき込み後の 飼料用トウモロコシ栽培の実証(葛尾村)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 景観作物すき込み後の飼料用トウモロコシ栽培の実証(葛尾村)

担当者名 柳田和弘

I 実証技術の解説

1 要旨

葛尾村における飼料用トウモロコシ栽培に当たり、景観作物としてのクリムソクローバをすき込み利用することにより窒素肥料を 2.5kg/10a 程度減らすことが可能であった。

- (1) 3月19日に播種したクリムソクローバは、6月13日に開花期を迎え、生育量は乾物重で 394kg/10a、窒素含量 1.9%となり、クリムソクローバをすき込むことで、窒素 約 7.5kg/10a がほ場へ投入された(表1)。
- (2) 6月22日に播種した飼料用トウモロコシの乾物収量は、クリムソクローバをすき込むことで、化学肥料としての窒素施肥量 7.5kg/10a において窒素施肥量 10kg/10a と同等の収量が得られた(図1)。

2 期待される効果

- (1) 除染後農地における飼料用トウモロコシ栽培の参考資料となる。
- (2) クリムソクローバの導入により、地域の景観形成が期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証では、クリムソクローバと飼料用トウモロコシは別のほ場で栽培しており、規定量のクリムソクローバを抜き取り、飼料用トウモロコシ栽培前にすき込んだ結果である。
- (2) 本実証で使用した品種は、クリムソクローバ「くれない」、飼料用トウモロコシ「LG3490」(RM108)であり、クリムソクローバの種子代は約 2,600 円/10a であった。
- (3) 本実証では、土壌改良として飼料用トウモロコシ栽培前に、牛ふん堆肥 4t/10a、苦土石灰 100kg/10a 施用した。

II 具体的データ等

表1 クリムソクローバの生育特性及び生育量

播種日 ^{注1)}	開花始期	開花期 [50%開花]	すき込み日	生育量(kg/10a)		窒素含量 (%)	窒素投入量 ^{注2)} (kg/10a)	CN比
				生重	乾物重			
3月19日	6月4日	6月13日	6月19日	2,647	394	1.9	7.5	21.5

注1) 播種量: 2.4kg/10a 注2) 窒素投入量=乾物重×窒素含量



写真1 クリムソクローバ

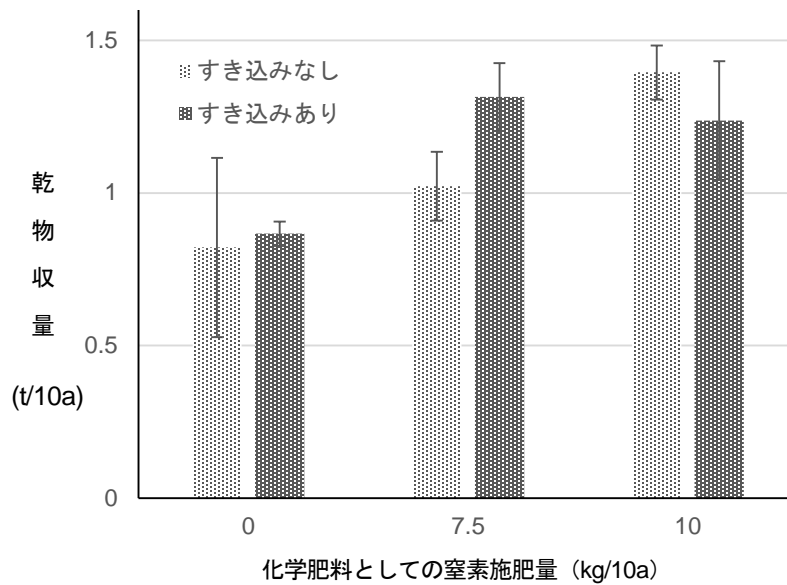


図1 クリムソクローバすき込みによる飼料用トウモロコシ乾物収量への影響

III その他

1 執筆者

柳田和弘

2 実施期間

平成30年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

なし